

原子力ポリシースクールの開催

平成 28 年 2 月 22 日から 26 日までの期間で、若狭湾エネルギー研究センター、国際原子力機関（IAEA）及び原子力国際協力センター（JICC）が共同で、アジア 5 か国の原子力政策を担当する行政官 10 名を対象に、原子力人材育成研修「原子力ポリシースクール」を開催しました。

研修では、IAEA や国内の大学・行政機関などからの専門家を講師として招聘し、原子力・エネルギーの国際情勢や日本の原子力政策、電力事業者による立地地域との関わり、福井県の原子力行政や防災の取組みなど計 16 の講義を実施しました。特に「原子力発電と地域との関わり」に関しては、敦賀市の渚上市長が講師を務めるとともに、研修生同士の討論会も実施しました。また、敦賀市にある原子力関連企業や関電大飯発電所などの施設見学を行い、立地地域が原子力発電と関わってきたこれまでの経緯や経験等を紹介しました。

参加者からは、「本研修に参加することができ、素晴らしい機会を与えていただいた。」「IAEA や国内の大学、行政機関等の講師による講義がとてもすばらしく、貴重な知識を得ることができた。」との感想をいただきました。



関西電力大飯発電所見学の様子



渚上敦賀市長による講義

廃止措置セミナーの開催

平成 28 年 3 月 7 日から 11 日までの 5 日間、全国の大学生と高専生を対象として、廃止措置セミナーを開催しました。本セミナーは、原子炉の廃止措置技術に関する理解を深め、レーザー、ロボット等の関連先端技術に触れることにより、将来の原子力技術を担う若手の研究者及び技術者を育成するため、今年度から 3 か年実施するものです。

原子力専攻以外の学生も対象として、原子力人材の裾野を拡大することを目的としています。

今回は、県内外の 5 つの大学から 14 名、4 つの高専から 12 名の計 26 名（うち県外から 20 名）が参加し、大学教授等による講義のほか、電力事業者の研修施設や廃止措置作業現場の見学、レーザー切断などの技術実習を行うことにより、一般の学生にも廃止措置について興味を持ち理解していただける研修内容としました。

受講生からは「廃止措置にはいろいろな技術や知識が必要なことがわかった」「グループ討論によって、講義の内容をより深く理解でき、他の学生と議論でき、とても刺激を受けた」などの感想が寄せられ、これから本格化する廃止措置への理解が深まったことが伺えました。



シミュレータを使った講義



グループ討論の様子

※このセミナーは、文部科学省「国際原子力人材育成イニシアティブ事業」に採択された「福井の原子力資源を活用した廃炉本格化時代に向けた人材の育成」の一環として実施。

つるが環境フェア 2016 へ出展

つるが環境フェア2016「グリーンピクニック」が、平成28年3月5日（土）に敦賀市きらめきみなと館で開催されました。当イベントは「楽しみながら健康的に過ごす、環境にやさしい1日」をテーマに開催され、来場者約3000人を迎えました。パネル展示では41の企業や団体がブースを設置し、環境配慮への自社の取組みを紹介していました。

エネ研のブースでは、県内企業がエネ研の支援事業を活用して開発した植物由来成分を含むポリ袋などの新製品やエネ研の研究開発の取組み等を展示・紹介しました。

今回は大人から子供まで、大勢の方に立ち寄っていただき、環境への知識を深めていただきました。



エネ研紹介ブースの様子

エネ研 特許紹介 「植物工場照明装置」

発明の名称：植物工場照明装置

特許番号：特許第5598814号

【特許の概要】

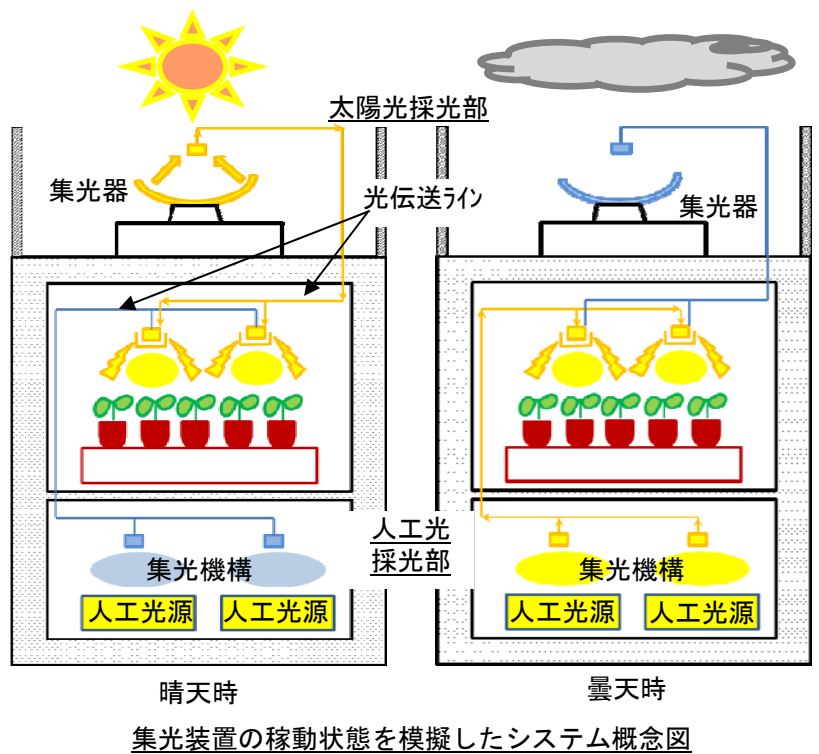
エネ研では、太陽（外光）の直接入射が遮断された植物工場の栽培室に、常時光を届けるため、太陽光の集光部と人工光の集光部を伝送損失の極めて少ない石英系光ファイバを使用した光伝送ラインで繋ぐシステムを考案し、特許を取得しています。

この集光システムでは、天候（外光）の変化に応じて集光部を、太陽光と人工光とに切り替えまたは併用するなど、植物の生育に最適な光環境を常時確保することができるシステムです。

【特許活用のメリット】

植物工場を人工光源のみで稼動すると、照明用の費用が大きく、併せて光源の発熱に伴う空調の費用も必要となります。一方、太陽光のみでは、天候や時間帯により採光量が変化し、植物の育成に影響が出ます。

この太陽光・人工光併用（ハイブリッド）方式であれば、天候に左右されず、効率的に、省コスト、省エネルギーで、植物を室内生産することができます。



集光装置の稼動状態を模擬したシステム概念図

